

(仮称) おおた教育ビジョン

令和6(2024)年度～令和10(2028)年度

笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます

素案(案)

概要版

本計画掲載事業等は、令和6年度
予算編成中のため、今後変更となる
ことがあります

計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

大田区においては、教育基本法第 17 条第 2 項に基づく「教育振興基本計画」として、平成 21 年度に『おおた教育振興プラン』、平成 26 年度に『おおた教育振興プラン 2014』、令和元年度に『おおた教育ビジョン』と、これまでに三つの計画を策定し、教育施策を総合的かつ計画的に推進してきました。

このたび、『おおた教育ビジョン』の取組の成果と課題を検証し、令和 6 年度から 5 年間の大田区の教育振興基本計画として新たな『おおた教育ビジョン』を策定しました。

新たな『おおた教育ビジョン』は、笑顔とあたたかさあふれる未来社会の実現に向けて、次代を担う大田区の子どもたち一人ひとりの成長を支える計画とします。

なお、策定にあたっては、こども基本法に基づき、区立小中学校の児童・生徒からの意見も尊重するとともに、乳幼児期から中学校までの子どもの実態を踏まえ、検討しました。

2 計画の期間

本計画の計画期間は令和 6 年度～令和 10 年度までの 5 年間とします。

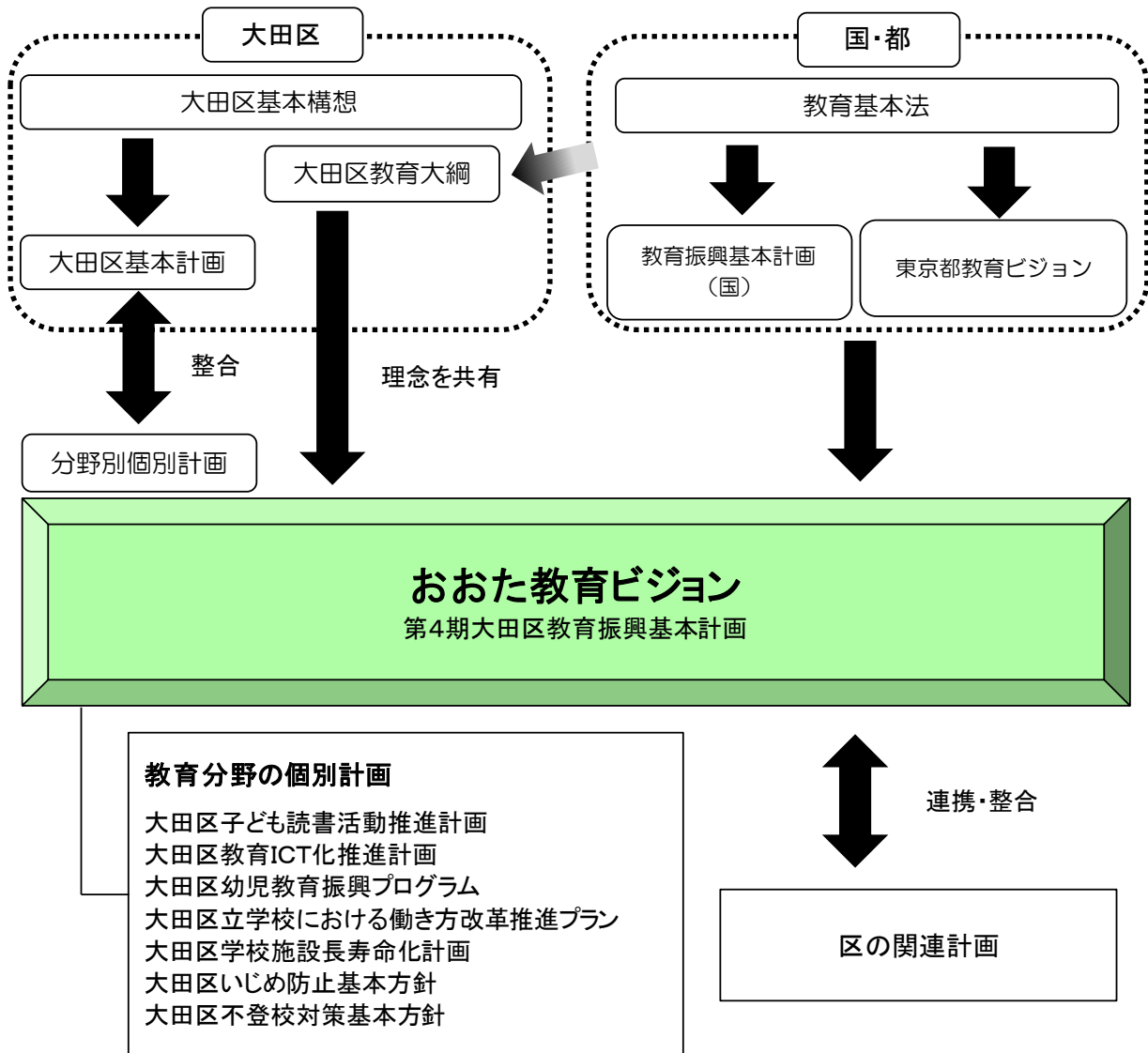
		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
大田区	おおた教育ビジョン	計画期間（令和 6 年度～令和 10 年度）				
国	第 4 期教育振興基本計画	計画期間（平成 5 年度～令和 9 年度）				
東京都	東京都教育ビジョン（第 5 次）	計画期間（令和 6 年度～令和 10 年度）				

3 計画の対象

本計画は、教育委員会が実施する事業を対象にした計画とします。ただし、教育委員会の権限に属する事務として区長部局が補助執行をしている成人教育の一部の事業（生涯学習情報の発信）も対象とします。

4 計画の位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項に規定する「教育振興基本計画」であるとともに、大田区基本計画の分野別個別計画として位置付けます。また、区に関連する個別計画との整合性を図りながら、おおた教育ビジョンに示された施策に取り組みます。



おおた教育ビジョン 体系図

理念

笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます

基本方針

基本方針 1
持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します

基本方針 2
誰一人取り残さず、子どもの可能性を最大限に引き出します

基本方針 3
すべての区民が未来を担う子どもを育て、ともに学び続けます

個別目標

個別目標 1
予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します

個別目標 2
世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します

個別目標 3
一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します

個別目標 4
学校力・教師力を向上させます

個別目標 5
自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します

個別目標 6
柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります

個別目標 7
学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります

個別目標 8
生涯学び続ける環境をつくります

施策

- (1) 課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成
- (2) 主体的に考え、行動し、協働していく力の育成
- (3) 情報活用能力の育成

- (1) 英語力の向上とコミュニケーション能力の育成
- (2) 郷土の伝統・文化の尊重と、異なる文化・価値を理解し共に生きる態度の育成
- (3) 持続可能な社会を形成していく態度の育成

- (1) 豊かな心の育成
- (2) 誰一人取り残さない、確かな学力の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) 乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育の充実

- (1) 新たな授業モデルの構築と深い学びに向けた教師の授業力の向上
- (2) 学校の組織的な運営力の向上
- (3) 学校における働き方改革等による教師の魅力の向上

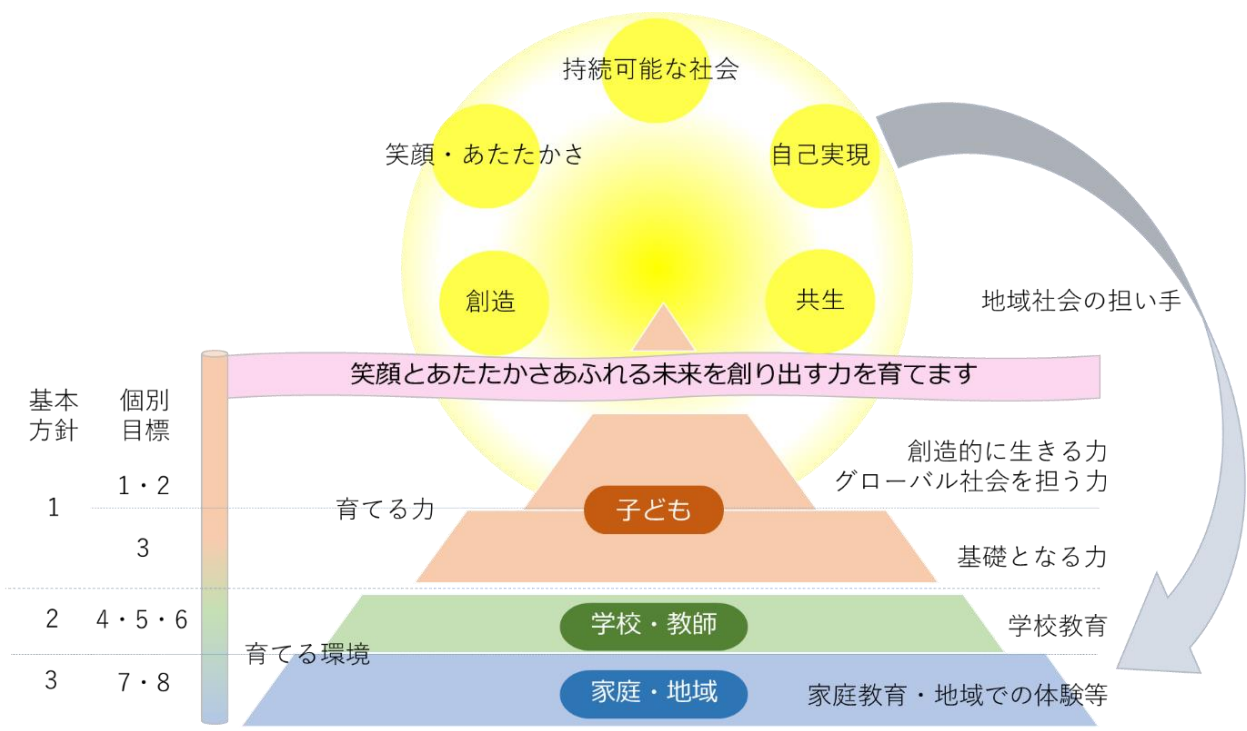
- (1) 特別支援教育の充実
- (2) いじめの早期発見・早期対応と不登校対策の充実
- (3) 相談・支援機能の充実

- (1) 魅力ある学校施設の整備
- (2) 可能性を引き出す学習環境の充実
- (3) 安全・安心の確保

- (1) コミュニティ・スクールの推進
- (2) 地域と連携した安全・安心な環境づくり
- (3) 家庭教育への支援

- (1) 図書館機能の充実
- (2) 多様な学習機会の提供
- (3) 文化財保護

体系のイメージ図



「家庭・地域」、「学校・教師」が子どもたちの成長を支え、「子ども」の創造的に生きる力とグローバル社会を担う力をはぐくみます。
 子どもたちは未来社会において、ビジョンの理念に掲げる力を身に付けた社会の形成者として、「持続可能な社会」「笑顔・あたたかさ」「自己実現」「創造」「共生」を実現し、地域社会の担い手として地域を支えていきます。

計画の基本的な考え方

1 おおた教育ビジョンの全体像

(1) 理念

「おおた教育ビジョン」に掲げる教育施策の目指す姿を、次のとおり理念として設定します。

笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます

- 現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字を取って「VUCA」の時代ともいわれています。子どもたちは、将来において、少子化・人口減少、気候変動などの地球環境問題、グローバル化の更なる進展や AI・ロボットの発達などの様々な社会課題をはじめ、現代からは予想だにしない社会の変化にも対峙していくことになります。
- そのような予測困難な時代においても、一人ひとりが他者、あるいは社会とのつながりの中で、笑顔があふれ、幸せや豊かさといったあたたかさを実感できる社会が求められています。これからの教育は、子どもたちが未来社会において、希望をもって自己実現を図り、自立した社会の形成者として、みんなで力をあわせて、より良い社会を築いていくための力を身に付けることがより一層大切です。
- そのため、子どもたちには、社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、課題を解決していく意欲や資質・能力を育てることや、自分自身の幸せ、地域や社会全体の幸せや豊かさを追求する姿勢をはぐくむ教育を行う必要があります。これには、学校はもとより、家庭、地域など、子どもたちにかかわる多様な人々、組織とのつながり、ふれあいの中での学び、働きかけや支援が不可欠であり、社会全体が一丸となって、必要な教育施策を着実に実行していくことが求められます。
- そこで、新たな教育ビジョンの基本方針を「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」とします。これは、子どもたちが未来社会において一人ひとりのウェルビーイングが実現された社会を創る担い手になることを目指しています。同時に、そのような社会全体の幸福を追求する心をはぐくむには、子どもたちがウェルビーイングを実現した状態で大人へと成長していくことが重要です。
- 教育基本法が掲げる「人格の完成」を目指し、生きていく上で基礎となる「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性をはぐくむとともに、その基盤の上に成り立つ、みんなの幸せな未来を創造する力を育成してまいります。

(2) 基本方針と個別目標

理念を実現するにあたり、3つの基本方針を定めます。また、基本方針を踏まえた教育施策を体系化するために8つの個別目標を設定し、具体的な事業展開への道筋を示します。

基本方針 1

持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します

- 将来の予測が困難な時代において、より良い未来社会を創るためには、一人ひとりが主体的に課題解決を図り、持続可能な社会の維持・発展のために寄与していく必要があります。
- このため子どもたちには、まず、生きていく上で基礎となる豊かな心や確かな学力、健やかな体をはぐくむことが必要です。
豊かな心をはぐくむために、責任感、規範意識などの道徳性、豊かな情操や感性等を醸成します。また、学力では、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を育成し、学びに向かう力・人間性等の涵養を図ります。さらに、生涯にわたってたくましく生きるための体力、健康づくりを進めます。これらを調和的に育成することで、生きていくうえでの土台となる基礎的な力を着実にはぐくみます。
- その上で、地球規模の諸課題を自らに関わる問題として捉え、「SDGs 未来都市」にふさわしいグローバルな視野をもって、持続可能な社会を創り出す力を育成します。また、めざましい発展、進歩を遂げる科学技術を正しく理解し、使いこなすための情報活用能力を育成します。
- さらに、世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成するため、英語でのコミュニケーション能力を向上させるとともに、我が国や郷土の伝統や文化を尊重する心や、異なる文化や価値観をもつ相手と真摯に向き合い、相互に理解しようとする態度や論理的に対話する力、粘り強くやりぬく力、困難な状況から回復する力を育成します。
- これらの力を駆使することで、世界を視野に新たな価値を創造し、様々な社会課題を解決することができるグローバル人材を育成します。

個別目標 1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します

個別目標 2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します

個別目標 3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します

基本方針 2

誰一人取り残さず、子どもの可能性を最大限に引き出します

- 子どもたちは、誰一人として同じではなく多様性と無限大の可能性を秘めています。その可能性を最大限に引き出すためには、児童・生徒一人ひとりの最適な学びの実現が重要です。
- 教師は児童・生徒の学習意欲を引き出す授業を行い、主体性を発揮できる学びにつなげていく必要があります。そこで、授業研究、授業改善等の手法に教育データの活用を取り入れ、客観的に授業のあり方を見直すなど、学びの動機付けや「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善し、新たな授業モデルを構築します。
- また、教師が備えるべき資質・能力を高めるとともに、教育職の専門性を生かした業務に集中できる体制を整え、児童・生徒に向き合う時間を確保することで、教師が教育職の魅力を再確認し、誇りとやりがいをもって、意欲的に業務に取り組める環境を整えます。これらの取組を通じ、児童・生徒、教師の双方にとって笑顔と活気のある学校づくりをめざします。
- 障がいや不登校、日本語能力など様々な困難のある児童・生徒に対し、それぞれにある困難に応じてきめ細かに対応することは重要です。児童・生徒にある困難は多様化・複雑化しているため、学校の組織的な対応力や教育機関の相談・支援体制を強化するとともに、関係機関や家庭、地域とも連携、協力した対応を進める必要があります。社会全体での組織的な対応力を高めることで、児童・生徒一人ひとりに寄り添い、誰一人取り残さず、全ての児童・生徒の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育を推進します。
- 施設・設備の面では、児童・生徒の可能性を最大限に引き出すための学習環境を整えていくことが重要です。そのため、時代の変化に対応し、児童・生徒にとって柔軟で創造的な学習空間を創出します。また、老朽化した学校施設の更新を進め、安全・安心の確保を進めます。

個別目標 4 学校力・教師力を向上させます

個別目標 5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します

個別目標 6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります

基本方針 3

すべての区民が未来を担う子どもを育て、ともに学び続けます

- 学校は、子どもたちが生涯を豊かに生きるための基礎的な学力をはぐくむ場であるとともに、様々な体験を通じて、社会生活を営む上での力をはぐくむ場でもあります。また、コロナ禍で余儀なくされた学校の臨時休業の際には、家庭や子どもたちの生活に影響が生じるなど、これまで学校が果たしてきた福祉的な側面も浮き彫りになっています。
- このように、学校に求められる役割が多岐に渡る一方、家庭や社会の価値観、生活様式等が多様化することで、学校が抱える課題は、家庭や地域社会の変容を反映し、複雑化・困難化の一途を辿っており、学校だけで多様な課題に対応し、子どもたちの成長を支えていくことが難しい時代になっています。このため、学校が家庭や地域と連携して子どもを育てていくことは、子どもたちの健やかな成長に欠かせないものとなっています。
- 大田区には様々な地域の特色があり、また、地域活動が活発であることから、学校運営協議会制度（以下「コミュニティ・スクール」）を推進し、地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を活かした学校づくりを進めます。このような学校づくりを通じて、学校・家庭・地域の連携・協働により、地域全体で未来を担う子どもを育てていくとともに、地域とのかかわりを通して地域への愛着や誇りをはぐくみ、将来の地域の担い手を育成します。
- また、人生 100 年時代では、社会人の学び直しやライフステージの変化に応じた学びなど、生涯を通じてそれぞれのニーズに応じた学習ができるよう、環境を整備する必要性が高まっています。そこで、図書館を子どもから大人まで誰もが生涯にわたって、立ち寄り、憩い、本と触れ合う「知」の拠点として、地域の特色を生かしながら充実させます。また、すべての区民が学びを通じて生きがいをもち、人生を豊かにしていくために、多様な学びの機会を提供し、生涯にわたって学び続けることができる環境を創出します。

個別目標 7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります

個別目標 8 生涯学び続ける環境をつくります

2 成果指標と目標

おおた教育ビジョンでは、8つの個別目標の達成度を把握・評価するための目安として、21の成果指標を設定しています。

○成果指標について

- ・全国学力・学習状況調査など、全国や東京都の数値と比較可能な調査を中心に設定。
- ・このほか、個別目標の達成度を測るために大田区教育委員会独自の調査などを設定。

○目標値について


- ・成果指標における過去の状況から、東京都平均と全国平均が同程度または東京都平均が全国平均を下回る状況にある指標は全国平均以上を目標値とする。
- ・東京都平均が全国平均を上回る状況にあるものは東京都平均以上を目標値とする。
- ・大田区教育委員会独自の調査など、全国や東京都の数値と比較ができない指標については、それぞれの指標ごとに個別の目標値を設定。

個別目標 1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） 〈全国学力・学習状況調査〉	小学校第6学年 71.7% 中学校第3学年 60.6%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 76.8% 中学校第3学年 63.9% (令和5年度)
「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） 〈全国学力・学習状況調査〉	小学校第6学年 80.6% 中学校第3学年 67.9%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 81.5% 中学校第3学年 66.3% (令和5年度)
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） 〈全国学力・学習状況調査〉	小学校第6学年 75.9% 中学校第3学年 73.3%	東京都平均以上	東京都平均以上	東京都平均 小学校第6学年 77.4% 中学校第3学年 75.7% (令和5年度)
理科の目標値（期待正答率）を超えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） 〈大田区学習効果測定〉	小学校第6学年 57.8% 中学校第3学年 56.6%	前年度より増加	前年度より増加	
「タブレット端末で情報を収集して、自分の考えをまとめ、発表することができる」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） 〈大田区教育委員会調査〉	(調整中)	(調整中)	(調整中)	

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「学級の児童（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 81.6% 中学校第3学年 79.4%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 81.8% 中学校第3学年 79.7% (令和5年度)

個別目標2 世界とつながる国際都市おたを担う人材を育成します

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
英語検定3級以上を取得している生徒の割合（中学校第3学年） ＜実用英語技能検定＞	中学校第3学年 53.8% (令和4年度)		中学校第3学年 73.8%	令和4年度より20ポイント増の73.8%を目標値とします。
「将来積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思う」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 52.2% 中学校第3学年 46.7%	東京都平均以上	東京都平均以上	東京都平均 小学校第6学年 53.8% 中学校第3学年 42.6% (令和5年度)

個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童・生徒の割合（小学校第6学年、中学校第3学年） ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 83.3% 中学校第3学年 81.5%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 83.5% 中学校第3学年 80.0% (令和5年度)
国語の平均正答率（小学校第6学年、中学校第3学年） ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 69% 中学校第3学年 70%	東京都平均以上	東京都平均以上	東京都平均 小学校第6学年 69% 中学校第3学年 72% (令和5年度)
算数・数学の平均正答率（小学校第6学年、中学校第3学年） ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 67% 中学校第3学年 53%	東京都平均以上	東京都平均以上	東京都平均 小学校第6学年 67% 中学校第3学年 54% (令和5年度)

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「運動をもっとしたい」と答えた児童・生徒の割合 (小学校第6学年、中学校第3学年) ＜東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査＞	小学校第6学年 51.6% 中学校第3学年 48.5% (令和4年度)	東京都平均以上	東京都平均以上	東京都平均 小学校第6学年 51.6% 中学校第3学年 48.5% (令和4年度)
体力合計点(小学校第6学年男女、中学校第3学年男女) ＜東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査＞	小学校第6学年 男子 58.9点 女子 59.3点 中学校第3学年 男子 47.5点 女子 49.6点 (令和4年度)	東京都平均以上	東京都平均以上	東京都平均 小学校第6学年 男子 58.9点 女子 59.6点 中学校第3学年 男子 47.2点 女子 49.8点 (令和4年度)

個別目標4 学校力・教師力を向上させます

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「学校に行くのは楽しいと思う」と答えた児童・生徒の割合(小学校第6学年、中学校第3学年) ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 83.8% 中学校第3学年 81.8%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 85.3% 中学校第3学年 81.8% (令和5年度)
「学校の授業は、わかりやすい授業が多いと思う」と答えた児童・生徒の割合(小学校第6学年、中学校第3学年) ＜大田区教育委員会調査＞	(調整中)	(調整中)	(調整中)	
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた児童・生徒の割合(小学校第6学年、中学校第3学年) ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 89.7% 中学校第3学年 85.1%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 89.8% 中学校第3学年 87.3% (令和5年度)
「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と答えた児童・生徒の割合(小学校第6学年、中学校第3学年) ＜全国学力・学習状況調査＞	小学校第6学年 90.5% 中学校第3学年 87.5%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 93.0% 中学校第3学年 88.9% (令和5年度)


個別目標 5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた児童・生徒の割合 (小学校第6学年、中学校第3学年) <全国学力・学習状況調査>	小学校第6学年 66.4% 中学校第3学年 65.1%	全国平均以上	全国平均以上	全国平均 小学校第6学年 68.5% 中学校第3学年 66.4% (令和5年度)

個別目標 6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
「学校の学習環境(教室の机やイスなどの設備、体育館や図書館などの施設、タブレット端末や電子黒板などのICT環境)は快適だと思う。」と答えた児童・生徒の割合(小学校第6学年、中学校第3学年) <大田区教育委員会調査>	(調整中)	(調整中)	(調整中)	

個別目標 7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
地域学校協働活動に参加したボランティアの数	36,319人 (令和4年度)		58,000人	直近5年間で最も多かった平成30年度の水準を目標値とします。

個別目標 8 生涯学び続ける環境をつくります

成果指標	令和5年度	令和6～9年度	令和10年度	備考
図書館の貸出冊数	5,303,654冊 (令和4年度)		5,850,000冊	直近5年間で最も多かった令和3年度の水準を目標値とします。